

会派視察・研修報告書

会派名 新生自民

代表者名 林 美行

1 日 に ち	2023 年 10 月 25 日（水）, 26 日（木）
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名： 第 18 回全国市議会議長会研究フォーラム 主催者： 全国市議会議長会 会場： 福岡県北九州市 西日本総合展示場 新館
3 参 加 者	林美行、葉狩拓也、亀井芳樹、獅子野真人
4 調査・研修の テーマ	統一地方選挙の検証と地方議会の課題
5 主な内容	25 日：基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」 パネディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」 26 日：課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」

6 所感、提言事項、課題等

【 林 美行 】

■18 回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州に参加して

人口減少社会の到来などにより地域が厳しい課題に直面する中で、地方議会の役割がますます重要になっていることや、地方議会を取り巻く環境が変化していることなどを踏まえ、議会としてどのような視点が必要であるかというテーマでのフォーラムでした。パネルディスカッションでは「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」をテーマに「多様な人材の地方議会への参画」への提案がなされました。

特に、基調講演は講師に大正大学教授兼地域構想研究所長 片山 善博氏により「躍動的でワクワクする市議会に」をテーマに、鳥取県知事という経験を踏まえて「地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革の検証」「日本の地方議会に欠けていることは何か」「現行の議会の権限を活用した積極的な取組」「議会の常識と市民の意識」「今、振り返って議会に感謝していること」など、現在の日本の地方自治における課題について話されたことには考えるところがありました。

「議案や予算案の修正はあり」「議場での真剣な議論がない。議案が通るかどうかの緊張感が必要」「税の議論がない」「議会（市民の声の反映）で結論が変わらなければ市民は議会に関心を持たない」「市長提案の議案をうのみにしない」などのキーワードには考えさせられました。

議会改革を進め、議会基本条例までを持つ多治見市議会が、その結果であるべき二元代表制での市長と議会の協調が、最大の課題になってしまい、いわば、議会基本条例を定めることで乗り越えたはずの、市民第一という議会の役割が、議会基本条例以前の状態に戻ってしまっているのではないかという思いと、改めて単なるなれ合いになってはいけないという思いを強くしました。市民のみなさんの気持ちから乖離することは、多治見市の未来に対する責任を放棄することになるのではないかと改めて考えさせられました。

多治見市が、鳥取県を視察した時の事を思い返してみました。総合計画を廃止してビジョンに基づく県政の運営に切り替えられたことの意味を再確認しました。

	【 葉狩 拓也 】 議員になって初めて、全国市議会議長会研究フォーラムへ参加した。日本全国から大変多くの議員が参加しており毎年各地で、このような大きなイベントが開催されていることに驚いた。ただこれだけ多くの議員が一堂に介する場ということで、もっとお互いに交流したりディスカッションをしたりする機会を増やすべきだと感じた。1 つの会場で、今のように、講演を聞くだけなら、今の時代、リモート開催等もっと効率の良い方法も模索しなければいけないと感じた。 今回のフォーラムで、『躍動的でワクワクする市議会に』というテーマで大正大学教授兼地域構想研究所長の片山善博氏の講演を拝聴したが、その中でも、『議場での真剣な議論がない。議案が通るかどうかの緊張感が必要』というお話が、大変心に残った。その他にも『議会の常識と市民の意識』『議会で結論が変わらなければ、市民は議会に関心を持たない』等今後、市議会議員として持つておかなければいけない心得を再確認することができた。
6 所感、提言事項、課題等	【 亀井 芳樹 】 今回は北九州市での「全国市議会議長会研究フォーラム」に参加させていただきました。サブテーマは「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」ということで、様々な事例を学ぶことができました。 私が特に印象的だったのは、 ①公開の場で真剣な議論がない ②税の議論がない ③住民の声が聞こえない（市民から見えない） という三つの課題でした。この三つは、本市の課題である可能性もありますので、私自身も真剣に向き合ってまいりたいと思います。また、「議会の中で多様性が必要」との言葉が何回も出ていました。日本の政治の課題として、若い方の参画が少なく、声が届きづらいことを考えると、議会側から若い方へのアプローチが必要だと感じました。 今回の学びを活かし、本市の発展のために尽くしてまいります。

	【 獅子野 真人 】 「躍動的でワクワクする市議会に」というテーマで講演された、大正大学教授兼地域構想研究所長の片山さんの話の中で特に印象に残っているのが、参考人招致です。一つの議案を市役所からの視点だけで捉えるのではなく、関係各位の様々な視点に基づき判断をするというのは、必要な考え方であると感じました。それが、市民を主役にした街づくりの一助になるのではないかと、議会に興味をもってもらうことにつながるのではないかと感じました。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。